

群 教 セ	I01 - 03
	令 3. 278 集
	特 - 肢体不自由

作業学習における働く意欲や関心をもち、 自分らしい生き方を考えられる生徒の育成 ——進学先や地域の働く人との交流や

振り返り活動の工夫を通して——

特別研修員 森田 裕子

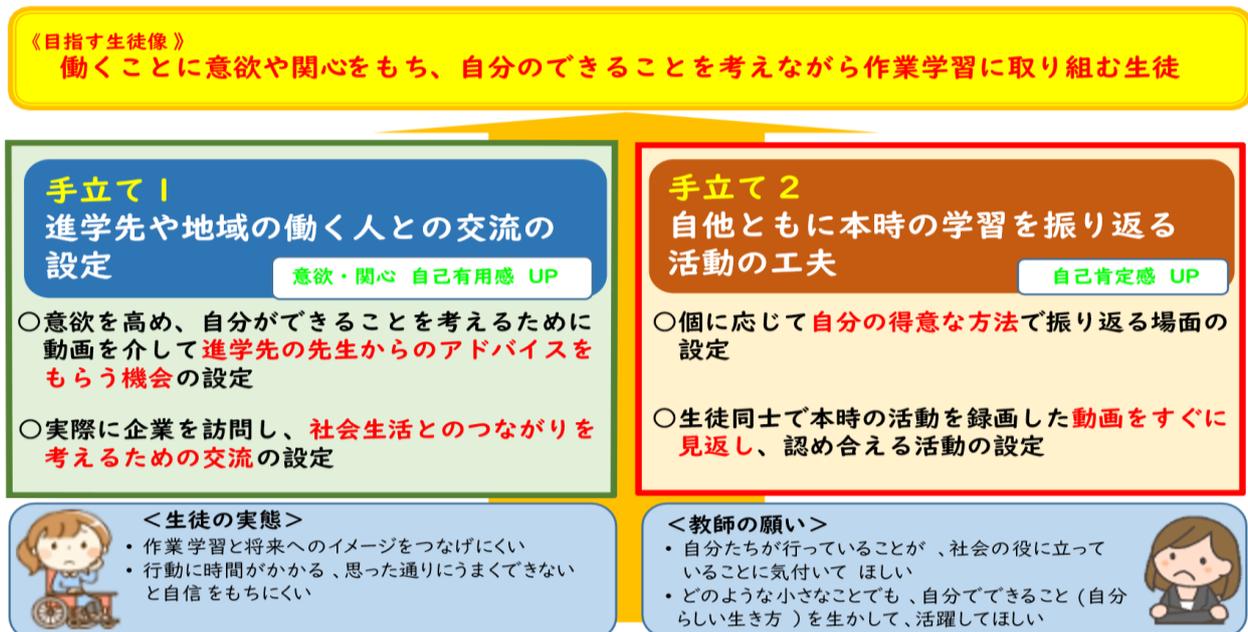
I 研究テーマ設定の理由

特別支援学校学習指導要領解説総則編(小学部・中学部)では、第1章総則第5節の1の(3)キャリア教育の充実の中で、学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことが示されている。また、各教科等編では、作業学習の指導に当たり考慮することとして、児童生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む意義や価値に触れ、喜びや完成の達成感が味わえることが示されている。

本校中学部の知的代替の教育課程では、「作業学習」を教育課程に組み入れ、肢体不自由のある生徒それぞれが、集団の中で自分の役割を果たすことができるような活動に取り組んでいる。しかし、校内工場や現場実習などの実際の・体験的な活動が設定されておらず、生徒が、働く意義や価値をもって意欲的に取り組んだり、働くことをイメージし、自分の将来とのつながりで考えたりすることが難しいと考える。そこで、進学先や地域の働く人との交流の機会を設定し、将来の生活を身近に感じたり自分事として考えたりできるようにする。また、振り返り活動において、自己評価や他者と認め合える活動を工夫し、自己有用感や自己肯定感を積み重ねていけるようにする。これらを通して、働く意義や価値が分かり、意欲や関心を高め、自分の将来とのつながりを考えながら、「今〇〇ができるようになりたい」「自分ができることをがんばりたい」という気持ちをもてるようにしていきたい。このことは、自分らしい生き方を考えることであり、すなわちキャリア発達につながると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

作業学習において、生徒が働く意欲や関心をもち、自分らしい生き方を考えられるようにするための交流や振り返り活動の工夫として、以下の手立てを設定した。

手立て1 進学先や地域の働く人との交流の設定

進学先の教師からは、動画で作業内容に関する助言をもらう。その動画を見ることで、近い将来である「進学」ということを意識しながら働く意欲を高めたり、自ら作業をよりよくするための工夫点を考えたりできるようにする。また、作業内容と関連する企業と直接交流の場を設定することで、「働く」ことに対する関心を高め、地域や社会生活とのつながりを感じることができるようになる。交流した際の様子はタブレット端末に録画・保存し、生徒がいつでも振り返ることができるようにする。

手立て2 自他ともに学習を振り返る活動の工夫

単元や本時の学習を振り返る際は、個々の実態に合わせて、ワークシートへの記入、写真カードの選択、タブレット端末での音声入力を活用し、自分の学びの自己評価ができるようにする。さらに、タブレット端末と大型テレビを活用し、自分や友達の作業の様子をその時間内に静止画や動画で振り返る活動を設定する。その際、一人一人に焦点を当て、全員で該当生徒のよいところを見付けるように言葉を掛け、生徒同士が認め合い、学び合いができるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 進学先の教師からの賞賛を含む助言を聞く機会を設定したことで、助言の中から、自分が工夫できることを取捨選択し、本時の目標に取り入れようとする生徒の姿が見られ、自分のできることを頑張りたいという意欲につながった。
- 地域の働く人の話を聞いたり、仕事の様子を見たりする企業との交流を設定したことで、生徒は、作業学習で学んでいることが日常生活と関連していることに気付くことができ、働くことの意義・意欲や関心、また、役に立っているという自己有用感が高まった。
- 企業との交流の様子を録画し、タブレット端末で視聴できるようにしたことで、動画を友達と一緒に何度も見直すなど、生徒が自発的に振り返る姿が見られ、作業学習や実際に働く人への関心が高まった。
- 作業後すぐに自分や友達の活動の様子を動画で振り返る場面を設定し、一人一人の学習を丁寧に振り返るようにしたことで、生徒は、自分の取組を思い出し自信をもって評価したり、友達のがよかったところを互いに伝え合ったりすることができ、自己肯定感が高まった。
- 学習を重ねるにつれ、生徒から「明日は作業があるから、今日は早く寝て、朝ご飯も食べてきます」という言葉が出るようになった。このことは、作業学習や働くことに対する気持ちのもち方、自分のできることを実行しようとする姿につながった。

2 課題

- 作業学習を自分の社会生活に結び付けて考えながら働く意欲の向上につなげることができるよう、今後は、家庭との連携を深めていくことが大切と考える。
- タブレット端末を使ってすぐに動画で振り返ることの利点もあるが、生徒が「ここを工夫できた」という場面を切り取って取り上げる難しさを感じた。今後は、午後の授業時間や帰りの会などの活用や、ICT 機器だけでなく写真を掲示するなどの工夫をしながら振り返りができるようにしたい。

実践例

1 単元名 「ペットボトルリサイクルをしよう②」(第1・2学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、ペットボトルリサイクルの作業工程を行う。「ラベルはがし」「キャップ外し」「ペットボトル潰し」などの工程があり、個々の生徒の実態やねらいに応じて作業内容を決定している。授業では進学先の教師からのアドバイスを基に本時の目標を自ら設定する場面や振り返り活動の充実を図る場面を丁寧に扱うことで、生徒たちの自己有用感や自己肯定感、そして自分ができることを考えて行おうとする意欲・態度が育つことをねらう。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	ア 用具の扱い方や自分が作業しやすい動きを知ることができる。(知識及び技能) イ 効率のよい作業について、よりよい方法を考えたり、工夫したりして作業に取り組むことができる。(思考力、判断力、表現等) ウ 自ら立てた目標を振り返り、改善しようとすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 作業に必要な用具の扱い方が分かり、自分の動きやすい動きで作業に取り組んでいる。 (2) 設定された時間内に、ペットボトルリサイクル作業の数量を増やしたり、正確に分別したりするために、よりよい方法を考えたり、工夫をしたりしている。 (3) 作業学習の成果を自分で、また友達と互いに振り返り、次の作業に生かそうとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時 ～2時	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく作業をするための目標を立てながら、2学期の作業学習の流れに見通しをもつ。 ・1学期に取り組んだ作業学習やリサイクル工場の見学を思い出しながら、作業に取り組む。
追究する	第3時 ～6時	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で立てた目標を達成するための工夫点を確認しながら、作業に取り組む。 ・振り返りの視点を基に、自分たちの作業の様子を動画で振り返り、どのようところに注目すればよいかを知る。
	第7時 ～12時	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に取り組んでいる動画を進学先の教師に見てもらい、いただいたアドバイスを基に自分の作業をよりよくする方法について考え、実行する。
	第13時 ～15時	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの搬入に向けて、見通しをもちながら準備をする。 ・リサイクル工場へ搬入作業で、自分たちの作業の様子を伝え、賞賛されたり、注意点を聴いたりすることを通して、作業学習への意欲や自分たちの作業を振り返り、改善していこうとする気持ちを高める。
まとめる	第16時	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの作業の様子を撮影した動画やワークシートで作業学習をよりよくする工夫ができたかどうかを振り返る。

3 具体化した手立てについて

本時は全16時間中の第7時、8時間目に当たる。進学先の一つである高等特別支援学校(以下高等特支)の教師から自分たちの作業の様子を見てもらったコメント動画を視聴するところから始まる。動画の賞賛やアドバイスを参考に本時の目標を考え、自分でできる工夫をしながら作業に取り組む。授業の終わりには作業に取り組んでいる様子を録画した動画を視聴し、自分や友達の様子を客観的に振り返る。

以下のように手立てを具体化した。

＜手立て1＞進路先との交流の設定

- 事前に、生徒の進学先である高等特支の教師へ動画の撮影を依頼する。生徒たちが聞き取りやすく、目標を立てやすくするために、学習のねらい・意図・内容を伝え、言葉選びや話の項立てを授業者と一緒に考えるようにする。
- 授業では、生徒たちが動画の内容を理解できるように、動画を途中で止めて生徒の反応を確認しながら進める。さらに、どのようなアドバイスであったか、いつでも確認できるように、アドバイスの内容を象徴する写真と共にキーワードをボードに貼る。

＜手立て2＞自他ともに本時の学習を振り返る活動の工夫

- 一人一人に焦点を当て振り返るために生徒の姿を大きく録画するようにする。
- 自己評価をする際には、個々の実態に合わせて、ワークシートへの記入、写真カードの選択、タブレット端末での音声入力で行えるようにする。また、生徒同士が認め合い、学び合いができるように、本時の作業の様子を撮影した動画や静止画を大型テレビに映し、全員で該当生徒のよいところを見付けるように言葉を掛ける。

4 授業の実際

＜第1時＞ 地域の働く人との交流を振り返る

リサイクル工場での見学の様子を撮影し、授業で大型テレビを使って動画を視聴し振り返りを行った。断片的になりやすい記憶の連続性を保ち、関心・意欲の継続を図るために、教室で休み時間にタブレット端末で動画を自由に見ることができる環境を整えた。休み時間になると「先生、タブレット端末を貸してください」と生徒から自発的にタブレット端末を手取る姿が見られた。こちらからの促しがなくとも自分たちが映っている動画を何度も繰り返し見て、「Bさん、映ってるよ」と友達に声を掛けながら一緒に見る姿が見られた（図1）。



図1 繰り返し動画を見る

＜本時＞

(1) 高等特支の教師からのアドバイス動画を見る

本時の作業目標を決める際の関心・意欲を高めるために高等特支の教師から賞賛を含むアドバイスの動画を大型テレビで視聴した。賞賛いただいた場面と工夫点についてのアドバイスの場面で一度動画を止め、内容を整理しながら視聴するようにした。また、工夫点は、図2のように象徴する写真と言葉付きカードをボードに貼り、目で見てでも確認できるようにした。賞賛部分の動画を見た生徒に「どうでしたか」と問いかけると、生徒Aは図3のように自分から「はい！」と挙手し「あっし！（私）」と嬉しそうに発言し、自分が褒められていることを認識できた。また、生徒Bは「集中していたことを褒めてもらったから、今日もがんばりたい」という発言をし、本時で取り組みたいことを自分で考えて発表していた。



図2 写真付きカード



図3 挙手する生徒A

(2) 目標設定し共有する

高等特支の教師のアドバイスを手掛かりに、生徒は本時の目標を個人で設定し、全員で共有するようにする。目標設定の際には、個々の実態に合わせて、ワークシート、写真カード、音声アプリを使用する（図4）。



図4 音声アプリを使う生徒B

ワークシートはボードに貼り出したアドバイスを示した写真付きカードの中から、自分の目標にしたいものを選択できるようにキーワードを書き入れる欄を設けた。「今決めた目標を達成するために、今日は何のようなことを工夫したいですか」との教師の問いに「机の上の箱の置き方を工夫したいです」「袋の位置を工夫したいです」とアドバイスを受けて早速取り組んでみようという姿が見られた。また生徒Dは、作業の種類を写真カードで提示すると、どの作業を頑張りたいかを選択することができた(図5)。また、作業中に自ら考えて、やりやすいように箱の位置を工夫している様子も見られた。



図5 視線で選択

(3) 本時の振り返りを行う

自他ともにお互いのがんばりを認め合う場面を設定し、自己肯定感や自信を高めるために作業終了後すぐに本時の作業の様子を録画した動画を視聴するようにした。タブレット端末を大型テレビに映し出し、注目すべき生徒の様子を拡大した。生徒一人一人に焦点を当て、全員から賞賛してもらえるような場面を設け、教師が生徒の言葉を取り上げフィードバックするようにした。



図6 互いを認め合う姿

生徒Dの動画を見た後、発語があまりない生徒Aはすぐに拍手で生徒Dの頑張りを賞賛した。また生徒Cは「Dさんは前は先生のことばかり見ていたけど、今日は、しっかりと手元を見て作業ができていてよかったです」と前回の振り返り(反省点)を基に発言できた(図6)。すると、クラスみんなが拍手をして、生徒Dに賞賛の言葉を伝えることができた。生徒Dは嬉しそうに教師に視線を送り自己肯定感が高まった様子を感じられた。また、生徒Bは自己評価として「机に置く箱の位置を、後半に変えてみました」と発言した。実際にはその場面を動画で示すことができなかったが、自分で工夫できた所を言語化し表現できた。作業の目標としてあげていた個数よりも多くできたことから、そこを結び付けて教師が「箱の置く位置を工夫できたから、目標が達成できましたね」とフィードバックすることで、生徒Bは工夫と結果の関係性を認識し、笑顔が見られた。

5 考察

生徒たちに「なぜペットボトルリサイクルの作業をしているのか」ということの意義や作業に対する関心・意欲を高めるために、進学先や地域の働く人との交流を設定した。交流を通して生徒たちから自発的に「たくさんリサイクルしたい」「がんばりたい」という言葉が出たことから、意欲を高めることに有効であったと考える。また、作業に集中できる時間が長くなってくると、体力も必要であることを学び、「明日は作業があるから、今日は早く寝て、朝ご飯も食べてきます」といった教師との会話も出るようになった。このことは、働くことに対する気持ちのもち方、自分でできることの実行化が図られたことと判断できる。

振り返りにおいて、本時の作業の様子を録画した動画を、すぐに見返す活動を設定した。一人一人の様子を全員で共有し、生徒が自分の姿や友達の様子を客観的に見てそれぞれの発信の仕方でのよさや頑張りを伝え合うことは、生徒たちが自己肯定感や自信を積み重ねていくことに有効であったと考える。このことは、感想を求めたときの拍手であったり「Bさんは、袋の位置を変えていました」という発言があったりと、それぞれ友達の良さを認める発言がみられたことから判断できる。特に身体を動かすことが難しい生徒Dに対して、生徒Cが「前回の作業と比べてよくできていた」と発言したところ、生徒Dは視線で答え、クラス全員は生徒Dの方を見て、温かなまなざしや拍手が自然に起きた。生徒たちは、友達を意識しながら学習に取り組んでおり、振り返りの時間をしっかりと確保し学習を積み重ねていくことで、互いを認め合い、自己肯定感の向上につながると考えられる。これらはすなわち、将来、働くことや自分ができることを一生懸命行うなど、社会で自分らしく生活していくための基盤を培っていると言えるのではないかと考える。